

ブラジル 9月下旬の降雨が柑橘類の開花を促進するも依然不十分

[Cepea 2025年10月3日](#)

セペア、2025年10月3日 - 先週、柑橘類地帯の主要地域に雨が降り、これは一部の園地で開花を誘発するのに役立った。しかし、セペアの研究者らは、記録された水不足を補うには降雨の量と継続性がほとんどの農地で依然として不十分であると警告している。これは、次の収穫の潜在的生産可能性を決定づける重要な時期であることに留意する必要がある。

サンパウロ州とミナスジェライス州トリアングロ地域の柑橘類地帯では、今後数日間のうちに顕著な降雨の予報はなく、暑い天候が続く見込みである。セペアの研究者らは、この状況により、最近始まった開花期が危険な状況に置かれていると指摘している。セペアが調査した業界関係者らは、降雨量の少なさと非常に暑い日々によって着果が妨げられて大量の落花につながり、その結果、既に2025年に見られたように、来年の第1回目の開花による収穫に支障を来しかねないという懸念を持っている。

セペア/Cepea (サンパウロ大学応用経済高等研究センター)

(関連記事)ブラジル 柑橘類産地に降雨があるも強風被害に懸念

[Cepea 2025年10月2日](#)

セペア、2025年10月2日 - ブラジル南東部、特にサンパウロ州、パラナ州及びミナスジェライス州の一部に位置する柑橘類産地では、春(春分が起点)の第1週に降雨が記録された。この状況は今後の開花を促進することから楽観的な見方をもたらす一方で、強風により落果が発生した。セペアが調査した関係者らによると、サンパウロ州アバレ地域が最も影響を受けた地域の1つである。

2026/27年度の開花が平年並みに戻るためには、降雨の回復が極めて重要である。昨年はそれが確認されず、暖かく乾燥した冬の後、雨が本格的に戻ったのは10月以降となり、そのことが現在の作物の生育の遅れにつながっている。(以下、タヒチライムの輸出について省略)

セペア/Cepea (サンパウロ大学応用経済高等研究センター)

トルコ 昨年の霜害が今シーズンのザクロに影響

[FreshPlaza 2025年10月3日](#)

トルコの青果物輸出業者テュメン農産の輸出マネージャーであるケレム・テュメン氏は、トルコ産ザクロの出荷シーズンは早生品種から始まっているが、2024年に果樹が被った気象条件の影響により、収穫量は少なくなる見込みであるとして、「柑橘類のシーズンは困難な展開となる可能性があるため、今年はザクロの出荷シーズンに主軸を置くつもりである。シーズンは9月のアーリーワンダフル品種の収穫から始まった。来週にはヒジャーズ品種のザクロの収穫が開始される予定である。2024年の霜害が現在の生産にも影響を及ぼしており、トルコ産ザクロの総出荷量は少なくなると予想している。霜害は2024年の果実だけでなく樹体にも影響を与え、今シーズンは開花が少なくなった」と語った。

テュメン氏は、予想されるとおり収穫量が少ないと引合いが強まり、現在のザクロシーズンも例外ではないと説明し、「ザクロの引合いは昨シーズンよりも強く、これはトルコと欧州諸国の両方で今年の供給量が少ないことが確実に影響している。トルコ国内でも今年は引合いが強く、その背景には他のトルコ産果実の収穫量が少ないことがある。これは加工用品質の果実にも当てはまるが、家庭では代替の果実を求めるようになり、ザクロが手頃な選択肢となっている」と述べた。

テュメン氏は「収穫量は少ないものの、ザクロにとっては総じて良好なシーズンになると予想している」と締めくくった。

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)